

 評価のポイント

CL- II .ニーズを捉える力（精神科）

[6-2] 事例 ストレングスモデルとリカバリーモデルを活用したアセスメントと支援

①自分のリカバリーについて、望んでいること、目標、こんな生き方がしたい、こんな風に生活したいといったことをたくさん書き出してみよう。（あるいは話し合ってみよう）

②そのためにはどのような自分のストレングスを活かしてどうしていきたいか、考えてみましょう。

【出題の意図】

リカバリーを支援するのに、支援者自身が自分の人生を生きていないのはおかしいものです。

自分の希望は何なのか、望む生き方はどのようなものかを考えることは、患者のリカバリーを支援する際にもきっと役立つでしょう。まずは言語化する難しさから体験し、出せなかったら（言語化できない）難しさから他者への視点やケアに活かしていけるよう声掛けをしていただけたらと願っています。

その点で①の課題はどのようなリカバリーであっても、②の課題は言語化しはじめることでの学びへとつながるものと思います。そのため解答はありません。CL II ではより一歩進み、ケアの基盤となるコミュニケーションについて、ストレングスの場面でのコミュニケーションを参考にその難しさについて実際に体験できるとよいと思います。特に話を十分に聞ききすることは、それまでの効率的な看護業務からすると少し我慢が必要となってくる技法だと思えます。

このように、2人1組でロールプレイをする場合は、新しいコミュニケーション技法にチャレンジしたり、身に着ける機会になってほしいと思います。